



こちらから、  
ぜひ印刷労連のHPも  
ご覧ください。

連合 印刷労連 労働相談ダイヤル  
03-5442-0191



# 謹賀新年



2026年 新年のご挨拶  
印刷情報メディア産業労働組合連合会  
中央執行委員長 中村 彰男



印刷労連構成組織の組合員およびご家族の皆様ならびに役議員の皆様におかれましては、健やかな初春をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。また、日頃より印刷労連の諸活動に対しまして、ご理解とご協力を頂いておりますことに改めて感謝を申し上げます。

日本経済は、緩やかな回復基調が続き、昨年末には日経平均株価は史上最高値を更新しましたが、アメリカの関税政策や日中関係の冷え込み、物価高による個人消費の停滞など、不確実性は高まっております。

印刷情報メディア産業は、ペーパーメディアの減少など厳しい経営環境が続いておりますが、財務省の法人企業統計では、原材料価格の転嫁や、包装印刷事業の拡大、インバウンドによる観光販促物需要など、収益構造に変化が見え始めております。

2025春闘については、連合では昨年実績を上回る5%台の賃上げを継続することができました。印刷労連においても、平均賃上げ額・率ともに前年を上回る結果となりましたが、全ての構成組織において回答を引き出すことができていないのが現状であります。2026春闘に向けて、中小構成組織に対するバックアップ体制を強化していきたいと思います。

足元の生活では、令和の米騒動や相次ぐ飲食料品の値上げなどの影響により、実質賃金はマイナスが続いております。賃上げを起点とした成長型経済の実現には、物価を上回る賃上げが必要となりますが、この好循環を継続していくためには、更なる生産性向上と価格転嫁を推進するとともに、人的資本や新事業等への投資が必要であります。

特に、中小構成組織においては、賃上げの原資として、価格転嫁をはじめとした適正取引の取り組みが大変重要な課題であります。この点については、推薦議員である電力総連出身の浜野よしふみ・竹詰ひとし両参議院議員に対して産業政策要望書を提出し、昨年は3月の参議院予算委員会、4月の参議院内閣委員会において、印刷産業における価格転嫁の実態等を取り上げて頂きました。今後も、地協・構成組織との対話により、印刷産業の課題や現場の問題を吸い上げ、連合や支援議員を通じて、国政や行政に対して産業政策を発信し、魅力ある印刷情報メディア産業を実現していきたいと思います。

そのほかにも「組織の充実・強化」や「男女平等参画・ジェンダー平等推進」など、取り組むべき課題は山積しておりますが、執行部一丸となって取り組みを進めて参ります。

最後に、皆さまのご健勝とご多幸を、心よりご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

# 中村中央執行委員長 トップリーダー宣言

## ジェンダー平等を推進し、魅力ある印刷情報メディア産業にしよう ～労働組合のオピニオンダイバーシティを実現しよう～

印刷情報メディア産業は、ペーパーメディアの減少に伴い、デジタル化や包装印刷事業の拡大、インバウンドによる観光販促物需要への対応など、事業の収益構造は変化しております。長年培ってきた印刷技術をもとに新たな価値を創造していくためには、多様な人材が活躍できる会社にいかなければなりません。

人事処遇制度や働き方、職場環境等において阻害要因はないでしょうか。印刷産業特有の商慣習や職場課題もあると思います。多様な視点をもって一つひとつ改善していくためには、私たち労働組合のオピニオンダイバーシティを実現していく必要があると思います。

印刷労連は2013年から「男女平等参画・ジェンダー平等推進」を運動方針に掲げて取り組んできましたが、方針に掲げるまでもなくそれが当たり前の社会にいくためには、地方協議会・各構成組織の運動方針に落とし込み、活動として定着させていく、社会全体の取り組みにしていく必要があると思います。

印刷労連本部といたしましても、これまで以上に、地方協議会・構成組織との連携を強化していくとともに、この運動を未来につなげていくため、若手リーダーの育成にも力を入れていきたいと思います。明るい未来に向けて、ともに頑張りましょう。

印刷労連 中央執行委員長 中村 彰男



### ＜編集後記＞

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申しあげます。2026年、今年は午年(うまどし)になります。午年はエネルギーが最も高まり物事が大きく動く年といわれているそうで、挑戦や行動が実を結びやすい年とのことです。自分の力を発揮する舞台が整う時期であり、積極的に表に出て動くことで、存在感や評価が高まるそうです。私たち印刷労連もここに集う仲間とともに、組合員の幸せと豊かな生活の実現のためにも皆で一丸となって活動に積極的に取り組んでまいりましょう。